

記号を用い複数の動作を示唆するビジュアル表現の研究

研究背景

塾講師のアルバイトのとき、主に小中学生が問題を解いて答えを導き出す際に、ひとつの解法にこだわってしまうことに気づいた。

その結果、最適解や他の解法にたどり着くことができず、諦めたり、自信を無くしてしまうことがある。

そこで、考え方を養うきっかけとなるものが必要だと考え、この研究に至った。

仮説

言葉ではなく、複数の動作をひとつの記号に表すことで、
ノンバーバルコミュニケーションかつ、
1→複数 を考えるきっかけとなるのではないか

目的

- ・「1→1」の答えを出すのではなく、
「1→複数」の答えを導き出すきっかけを与える
- ・グラフィックの関係性や意味を求め、
考えることを無意識的に行わせる
→楽しく、考えることを意識させすぎないツール作り

内容

用いる動作

- ・まぜる
- ・まわる
- ・まわす
- ・めぐる
- ・まるめる
- etc...

用いる記号



動作として「まぜる」など言語化をしているが、
思い浮かべることは言葉ではなく実際の動作の映像や、
「ぐるぐる」といった抽象的なものでも良しとする

動作前、動作後の2枚のグラフィックと記号を用い、考えるきっかけをつくる
→共通した記号でも、様々な動作をしていることがわかる

